

平成 28 年度 学校経営計画及び学校評価

1 めざす学校像

時代を切り拓く「生きる力」、グローバルな視点で物事を考え、自分の考えを発信し、国際社会や地域社会において活躍・貢献できる骨太な人材を育成する学校
人間の尊厳について深く理解し、豊かな人権感覚をもつ知・徳・体バランスのとれた人を育てる学校

1. 高い志、主体的かつ真摯に努力し続ける力を育む。
2. 基礎的な知識及び技能と、これらを活用し課題を解決するために必要な思考力・判断力・表現力を育む。
3. 批判的に考える力、説明し議論する力、豊かな人間関係を構築できる力、高い市民性・創造性を育む。
4. 高度で専門的な学びを深化させる意欲と、そのための基礎的知識・スキル、生涯にわたる探究心を育む。

2 中期的目標

創立 50 周年を機に「千里から世界へ・未来への航海」（文・理両方の高い学力、グローバルな視点、探究力、コミュニケーション能力・プレゼンテーション能力、先進性の追求）という教育目標の実現をめざす。

1 学びの切磋琢磨

（1）両学科の指導方法を活用し、全ての生徒が文系・理系両方の基礎学力を着実に身につけるよう指導する。

ア 全ての生徒の文・理両方の学力の底上げを図る。

教材・資料、基本となる指導方法について教科において研究・交流を進め、統一・共有化を進める。

アクティブ・ラーニングの指導に努め、実験・実習等を多く取り入れるとともに、ICT・VOD・視聴覚機器を積極的に活用する。

イ 生徒が自学自習の習慣を身につけるとともに、その効率と効果を高めていけるよう指導方法を工夫改善する。

宿題や課題の質を高める。タブレット端末を利用し学べるコンテンツの研究開発と充実を図る。

生徒一人ひとりの1～3年次の学力等の伸長の記録である「生徒カルテ」（平成 27 年度に研究開発したもの）を活用する。

※ 平成 29 年度、27 年度比で、学力診断テストにおける下位層の 15ポイント減、上位層の 15ポイント増をめざす。

（2）専門分野における探究力を高めるとともに、グローバル・リーダーに必要な言語活用力、プレゼンテーション能力・語学力を両学科とも向上させる。

ア 専門分野における探究力を高める。

研究指定等を積極的に活用し、課題研究に係る指導プログラムの研究開発を発展させ、質の高い課題研究が行えるよう取り組む。

両学科ともに、研究者・企業関係者等との連携を進め、適宜、評価・助言を受ける。

イ 全ての教科指導のレベルの底上げを図る。

学校全体として授業研究を進め、他校のすぐれた実践例の研究や公開授業等を行うとともに、知見を共有し授業の水準を高める。

教科の指導と評価の統一を図る。 ※ 保護者による授業見学アンケート結果を毎年度向上させる。

ウ 両学科とも言語活用力やプレゼンテーション能力・語学力を向上させる。

- ・ 校内外研修、語学研修、国際教育、国際交流等に積極的に取り組むとともに、質の向上及び効率化を図る。そのための指標づくりを行う。
- ・ 両学科とも、論文をはじめとする様々な形態のプレゼンテーションを行う機会を増やし、質の向上を図る。

※ 平成 29 年度において、27 年度比で、国公立大学進学者の 15ポイント増をめざす。また、毎年度研究発表の全国大会等出場をめざす。

2 高い志、豊かな感性、互いを尊重する精神を養うとともに、たくましく生きるための健康と体力を育む。

ア 高い目標を掲げ取り組むとともに、相互に協力・努力することの大切さについて学べるよう指導する。

- ・ ふだんの授業、ホームルーム、生徒会やクラブ等の自主活動、行事、探究力育成の指導等全ての活動において取り組む。

イ 違いを認め共に生きる力、紛争を解決する力を向上させるとともに、自分と人びとを大切に思い、社会に役立とうとする気もちを育む。

- ・ 創立 50 周年事業の成功に向け取り組むとともに、社会貢献に取り組む人たちによる講演や交流を行い、卒業生との連携協力を強める。
- ・ 特にホームルーム指導や人権学習において計画的に指導するとともに、生徒の状況を的確に把握し、指導方法の工夫改善に努める。
- ・ ICT機器等を正しく活用できるよう、活用ルール（平成 27 年度に作成）に基づき計画的に研修等を実施し指導する。

3 全ての生徒がそれぞれの進路希望を実現できるよう取り組む。

（1）3 年間を見通した総合的な指導計画（学習指導・進路指導・生活指導等）及び生徒カルテ（前掲）等を活用し、指導・支援する。

ア 上記の指標を基に、生徒の学力や学校生活等に係る意識等について、適宜的確に把握し、指導・支援する。

イ 土曜日の補習・講習等を計画的に、また、生徒のニーズにあうよう実施する。学校全体として有効活用できるよう校内体制を整備する。

（2）知・徳・体のバランスの良い生徒を育てる。

ア 部活動と勉強を両立させるよう計画的に指導を行うとともに、生徒の自己管理能力を高めるよう取り組む。そのための教職員間の連携協力を強める。

イ すべての学校生活において、生徒が連帯感・達成感を体得できるよう指導・支援するとともに、成果について評価・顕彰する。

4 教員の指導力の不断の向上に努める。先進的な教育に取り組むための校内体制の確立をめざす。

学習、課題研究、進路、生活、部活動等自主活動等全てにおいて研究指定等を活用し質を高める。校内組織の連携を強める。個人情報保護の徹底を図る。

【学校教育自己診断の結果と分析・学校協議会からの意見】

学校教育自己診断の結果と分析〔平成 28 年 12 月実施分〕	学校協議会からの意見
学校生活全般について 「学校に行くのが楽しい」という問に対する生徒の肯定的回答は 83％であり、昨年度より 1％増えた。「この学校にはほかの学校にない特色がある」に対し肯定的回答が 89％（昨年度 92％）であり、3％の減となった。多数の生徒が学校生活や本校の特色を肯定的に受けとめてくれているが、さらなる改善をめざす。 授業全般、及び、家庭学習について 「私は授業の準備（宿題・予習・復習）をしている」に対する肯定的回答は 60％（昨年度 61％）と低く、家庭学習や授業準備のための時間をしっかりと確保することが課題であると考えており、今後、わかりやすく質の高い授業づくり、家庭との連携等を一層推進する。	第 1 回 6 月 30 日（木）14 時～16 時 平成 28 年度に重点を置く取組みについて協議した。 ・「目指す学校像」は方針ではなく生徒の主体性を高めるという取組みについて、評価できる指標を表記するのが望ましいとの指摘をいただく。 ・オープンな学校協議会のあり方について、学校協議会を教員全員が参観できるようにできないかとの提言をいただく。前向きに検討すると回答。 ・主権者教育についての質問があり、現代社会や総合的な学習の時間の授業で模擬投票などを行うといった取組みを報告。 第 2 回 11 月 10 日（木）14 時～16 時 取組みの進捗状況について協議した。 ・授業について「生徒が受け身にならないよう教員が一方的に話すのではなく双方向的な授業が望まれる。」「反転授業を更に進め授業の前後に勉強させる工夫が必要。」「授業の相互見学を進め教員が学び合う体制づくりが必要。」の感想、提言をいただく。 ・「科学探究」「探究」の取組みについて、「研究対象を世の中の動きに連動し、企業が研究に取り組んでいる課題などを見据えるべき」との提言をいただく。 ・学力向上の取組みについて、「目標設定・行動計画を生徒に作らせてみてはどうか」「答えが合うことではなく、考えることを重要視し、時代の流れを先取りした教育を行って欲しい」との提言・要望をいただく。 第 3 回 2 月 24 日（金） 14 時～16 時 取組みの達成状況について協議した。 ・身につける力の再確認として、1 年生前期に意識を喚起することが必要。将来の自分像を描かせられるよう、ロードマップを作成しオリエンテーションを行うべき。主体的、対話的で深い学びが実践できるよう体制づくり（プロジェクトチーム・教科間連携）を行うべきとの提言をいただく。 ・学校教育自己診断の有効化について、数量調査だけでなく、面談を通じて実質的な内容を把握すべきとの提言をいただく。

3 本年度の取組内容及び自己評価

中期的目標	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標	自己評価
学びの切磋琢磨	(1) 両学科の指導方法を活用し全生徒が文・理両方の基礎学力を身につける。ア全生徒の学力底上げ。イ自学自習習慣を身につけ効率と効果を高める指導方法を工夫改善。	(1) 企画調整会議内に学力向上ワーキンググループ設置するとともに、企画調整会議が関係組織と連携し推進。ア全ての生徒の文・理両方の学力の底上げを図る。基本となる指導方法について、教科において研究・交流を進め、統一・共有化を進める。アクティブ・ラーニングの指導に努め、実験・実習等を多く取り入れる。ICT・VOD・視聴覚機器活用。イ自学自習習慣を身につけるとともに効率と効果を高めるよう指導方法工夫改善。宿題や課題の質を高め、タブレット端末を利用し学べるコンテンツの研究開発・充実。千里カリテの活用。(2) 企画調整会議内に課題研究（「探究」「科学探究」） ・授業研究等ワーキンググループ設置。 ア専門分野における探究力を高める。 ・研究指定等を積極的に活用。 ・課題研究指導プログラムの研究開発を発展。 ・外部人材と連携、評価・助言を受ける。 ・中間発表時等における両学科間での交流。 イ全ての教科指導のレベルの底上げを図る。 ・授業研究、他校実践等研究推進。 ・教科の指導と評価の統一を図る。 ウ両学科とも言語活用力やプレゼンテーション能力 ・語学力を向上させる。 ・校内外研修・国際教育等推進、質向上・効率化。 ・生徒の様々な形態のプレゼンテーション実施。	・指導方法の統一、共有化進捗 前年比5%増。(H27：79%) ・ICT機器活用アンケート結果。前年比5%増。(H27：83%) 「授業で力をつけることができる」85%。(H27：78%) ・学力診断テスト 下位層 5%減 上位層 5%増。 ・課題研究充実。「『探究』は役立つ」80%。(H27：73%) ・授業研究ワーキンググループ設置し、研究授業・他校の取組みの研修実施。(研究授業回数等を評価) ・国公立大学進学70人(現役)。 ・海外大学進学者2名以上。 ・校内研修満足度90%。(H27：81%) ・TOEFLスコア目標 80点以上6人(H27：4人) 60点以上20人(H27：9人) 45点以上50人(H27：30人)。 ・海外研修4回実施。 ・校外プレゼンテーション参加数50人。(H27：41人)	・指導方法の統一、共有化進捗 79% (H27：79%) (○)。 ・ICT機器活用 83% (H27：82%)。(○) 「授業で力をつけることができる」79% (H27：78%)。(○) ・学力診断テスト下位層(43人[+16人])、上位層(43人[-25人])。(△) ・課題研究充実。「『探究』は役立つ」73% (H27：73%)。(○) ・授業研究ワーキンググループを設置し、先進校訪問を13校実施。(◎) ・全校的な研究授業は実施できず。(△) ・国公立大学進学 82人(現役)。(◎) ・海外大学進学者2名。(○) ・校内研修満足度 79% (H27：81%)。(△) ・TOEFLスコア目標 (○) 80点以上6人(目標6人 H27：4人) 60点以上16人(目標20人 H27：9人) 45点以上41人(目標50人 H27：30人)。 ・海外研修8回実施。(◎) ・校外プレゼンテーション参加数70人(H27：41人)。(◎)
	高い志・豊かな感性・互いを尊重、健康と体力育む	学年・教務部・進路指導部・国際・科学教育部が連携し、下記ア・イの年間計画策定し取り組む。ア高い目標を掲げるよう指導。カリパスについて理解を深め、相互に協力・努力することの大切さについて学べるよう指導。 ・普段の授業、ホームルーム、生徒会やクラブ等の自主活動、行事等において、また、探究力育成の指導等、全ての活動において生徒カリテ等により進路希望実現度を把握しつつ取り組む。 イ違いを認め共に生きる力、社会に役立とうとする気もちを育む。 ・創立50周年事業の成功に向け取り組む。 ・HRや人権学習等において計画的に指導。 ・各界専門家講演、卒業生との連携協力推進。 ・ICT機器・情報端末等を正しく活用できるよう同活用ルールに基づき計画的に研修実施・指導。	・学校教育自己診断(生徒) 「将来の進路や生き方について考える機会がある」85%。(H27：78%) 「家庭学習時間を確保できている」70%。(H27：60%) 「人権について学ぶ機会がある」85% (H27：82%)。	・学校教育自己診断(生徒) 「将来の進路や生き方について考える機会がある」77% (H27：78%)。(○) 「家庭学習時間を確保できている」60% (H27：61%)。(○) 「人権について学ぶ機会がある」87% (H27：82%)。(◎)
	全ての生徒の進路希望実現	(1) 3年間を見通した総合的指導計画(学習指導・進路指導・生活指導等)、及び、生徒カリテ等を活用し、指導・支援する。ア上記の指標を基に、生徒の学力や、学校生活・等に係る意識等について、適宜的確に把握し、指導・支援する。イ土曜日の補習・講習等計画的でニーズにあうよう実施する。有効活用できるよう校内体制整備。(2) 知・徳・体のバランスの良い生徒を育てる。ア部活動と勉強を両立させるよう計画的に指導。家庭学習時間確保等の把握と指導を行う。生徒の自己管理能力を高める。そのための教職員間の連携協力を強める。イすべての学校生活において、生徒が連帯感・達成感を体得できるよう指導・支援するとともに、成果について評価・顕彰。	・3年間を見通した学校生活充実に係る総合的指導計画・成果指標活用。 ・学校教育自己診断アンケート 「悩みや相談に応じてくれる」70%。(H27：61%) 「学校に行くのが楽しい」90%。(H27：83%) 「家庭学習する時間を確保できている」70%。(H27：61%) 「授業で力をつけることができる」85%。(H27：76%)	・3年間を見通した学校生活充実に係る総合的指導計画、成果指標活用。(○) ・学校教育自己診断アンケート 「悩みや相談に応じてくれる」62% (H27：60%)。(○) 「学校に行くのが楽しい」83% (H27：82%)。(○) 「家庭学習する時間を確保できている」60% (H27：61%)。(○) 「授業で力をつけることができる」79% (H27：78%)。(○)
教員の指導力の向上	学習、課題研究、進路、生活、部活動等自主活動等全てにおいて研究指定等を活用し質向上。校内組織の連携強化。個人情報保護の徹底。	学習、課題研究、進路、生活、部活動等あらゆる面における指導方法について質を高めるよう学年・分掌・教科間連携を強め校内体制整備。個人情報保護を徹底するためのしくみ・設備の整備。	・授業研究ワーキンググループを設置し、研究授業や他校の取組みの研修実施。(研究授業回数等を評価) ・学校教育自己診断アンケート 「悩みや相談に応じてくれる」70%。(H27：62%) ・個人情報保護徹底実現度。	・授業研究ワーキンググループを設置し、先進校訪問を13校実施。(◎) ・全校的な研究授業は実施できず。(△) ・学校教育自己診断アンケート 「悩みや相談に応じてくれる」60% (H27：62%)。(△) ・個人情報保護に関する事象は発生せず。(○)